

中村喜一郎著 「堅牢染色法」 (5)

赤焦茶色の染法

- (1) 染浴に冷水を満たし綿糸100匁につき100分中20のアリザリン10匁、同ガルロフラビン10匁、クルライン1匁5分及びアリザリン ブルー1匁の溶液を加えその中に下漬糸を繰入れ加温し沸騰に至り暫時煮沸し絞り之をソーダの熱湯で濯ぎ水洗する。
- (2) 浴にマルセル石鹼6匁とソーダ灰3匁の溶液を設け(1)の染糸を繰り入れ加温し煮沸し色相を鮮明にし地儀に之をソーダの温湯で濯ぎ石鹼分を脱除して清水で数回洗う。

赤茶色の染法

- (1) 染浴に冷水を設けて綿糸100匁につき100分中20のアリザリン マルーン10匁、同20のアントラセン ブラウン3匁、クルライン1匁5分の溶液及びロート油7匁を混和しその中に下漬綿糸を浸し暫時して絞り残液に醋酸石灰溶液を少量滴加し再び糸を繰り入れ加温し之を絞る。
- (2) 浴に石鹼とソーダの溶液を設け(1)の染糸を浸して余分の染料の除去や色相鮮明のための洗滌工程は前法と同じである。

黄茶色の染法

- (1) 染浴に冷水を設け綿糸100匁につき100分中20のガルロフラビン13匁、同20のアリザリン オレンジ2匁及びアントラセン ブラウン2匁を混和して加えてその中に下漬綿糸を浸し加温し暫時して絞り残液に醋酸少量を滴加し再び糸を入れ加温し沸騰に至れば絞りソーダの温湯に濯ぎ水洗する。
- (2) 浴にソーダ灰と石鹼の溶液を設け(1)の染糸を繰り入れ煮沸して余分の染料の除去と色相を鮮明にすることは前法に同じ。

オリーブ茶色の染法

- (1) 浴に冷水5升を満たし硝酸鉄ボーム30度の液10~15匁を加えその中に下漬綿糸を浸し意時間以上して絞り之を稀薄のソーダ灰の温湯で濯ぐ。
- (2) 染浴に冷水を満たし綿糸100匁につき100分中20のアントラセン ブラウン3匁5分、同20のガルロフラビン3匁5分、同20のアリザリン3分、同20アリザリン オレンジ2匁及びアリザリン ブルー1匁5分を別器で溶かし混和して加えその中に(1)の下漬綿糸を繰り入れ加温し沸騰に至り染めた後之を前法の如く石鹼とソーダの液の中に入れよく濯ぎ色相を鮮明にして清水で数回洗う。

黄色の染法

- (1) 染浴に冷水を満たし綿糸100匁につき100分中20のガルロフラビン1匁6分及び同20のアリザリン オレンジ2匁2分を混和してアンモニア水を少量滴加しその中に下漬綿糸を入れ加温し醋酸を滴加して沸騰に至れば絞る。
- (2) 浴に適宜温湯を設けてマルセル石鹼5~6匁とソーダ灰2~3匁の溶液に(1)の染糸を入れ加温し沸騰し色相を鮮明にして之を稀薄ソーダの温湯で数回濯ぎ石鹼分を除去し更に温湯で洗い稀薄の醋酸水に浸し次いで水洗する。
(注意) 容器は錫または錫鍍金した銅製を用いもし鉄製を用いると鮮明さを失う。

革色の染法

- (1) 浴に清水5升を設け硝酸鉄ボーメ30度の液10匁を加え攪拌その中に下漬綿糸を浸し置くこと1時間30分～2時間して絞り之を稀薄ソーダの温湯で濯ぎ水洗し次に進む。
- (2) 染浴に冷水を満たし綿糸100匁につき100分の20のアリザリン1匁、アリザリンブルー2匁5分及びクルライン4匁を別に溶かし混和して加えその中に下漬糸を入れ殆ど華氏130～140度の温度に至れば之を絞り残液に醋酸少量を滴加して中和して再び糸を繰り入れ徐々に加温沸騰に至れば絞り稀薄のソーダの温湯で濯ぎ水洗する。
- (3) 浴に温湯を設けマルセル石鹼6～7匁とソーダ灰2～3匁の液中に(2)の染糸を繰り入れ加温し沸騰に至れば引揚げて絞りソーダ灰5匁の温湯で十分に濯ぎ石鹼分を除き清水で数回洗う。

(注意) 染色の濃淡は(1)の下漬で使う硝酸鉄液と(2)のアリザリンの量に由る。また鮮明な革色を染めたい時は鉄剤は不要となるがあまりにも鮮明になり過ぎ錆色を欠いて却って趣を損なう。

濃青色の染法

- (1) 硝酸鉄ボーメ10～15度の液に下漬綿糸を浸し暫時して絞り再度浸漬し6時間以上して絞り之をアンモニア水に入れ濯ぐ。若しくは別浴に温湯を設けソーダ灰6～7匁を溶かしその中で十分に濯ぎ水洗する。
- (2) 染浴に冷水を満たし綿糸100匁につきアリザリンブルー4匁を別器に溶かして加えその中に下漬綿糸を繰り入れ徐々に加温し沸騰すれば引揚げて絞り稀薄ソーダの温湯で濯ぎ水洗する。
- (3) 染浴に冷水を満たし100分中20のアリザリン15匁及びロート油7匁を加えてよく攪拌しその中に青色綿糸を繰り入れ30分して引揚げ残液に醋酸石灰の溶液を少量加え再度染糸を浸し徐々に加温し沸騰すれば絞る。
- (4) 浴にマルセル石鹼5匁とソーダ灰3匁の温湯を設け(3)の染糸を繰り入れ加温し沸騰して余分の染料を除去すること2回に及び之をソーダの熱湯で濯ぎ黄思想を鮮明にして水洗後稀薄の醋酸水に浸し次に水洗する。

黒色の染法

- (1) 染浴に冷水を満たし綿糸100匁につきアリザリンブルー3～4匁を加えその中に下漬綿糸を浸し加温し沸騰し濃青色に染めて之を稀薄醋酸の液に浸し暫時して絞り次に進む。
 - (2) 硝酸鉄または硫酸酸化鉄液ボーメ20～25度に青色染糸を浸し一夜経て絞り之をアンモニア水またはソーダ6匁の温湯に20分浸しよく濯ぎ数回水洗する。
 - (3) 染浴に冷水を満たし100分中20のアリザリン20～25匁とロート油10匁を混和してこの中に(2)の染糸を浸し暫時して引揚げ残液に醋酸石灰の溶液少量を滴加し再度糸を繰り入れ加温し沸騰に至り尚暫時煮沸して絞り別浴にマルセル石鹼5匁とソーダ灰3匁の溶液を設け煮沸しこの中に染糸をを繰り込み余分の染料を除去し尚ソーダの熱湯で濯ぎ石鹼分を除いて水洗する。
 - (4) 染浴に冷水を設けクルライン3匁の溶液を加えその中に(3)の染糸を繰り入れて徐々に加温し沸騰すれば絞る。
 - (5) 浴に温湯を設けてマルセル石鹼6匁とソーダ灰3匁を溶かし染糸を投入し加温煮沸して色相を鮮明にし次にソーダの熱湯でよく濯ぎ石鹼分を除き清水でよく洗う。
- (注意) 色相が赤みを与える時は染糸を稀薄のガルロフラビンの冷液に入れ加温し煮沸して色相を確かめる。

別法

- (1) 硝酸鉄ボーメ 25 度の液に下漬綿糸を浸し置くこと一夜経た絞り之をソーダ灰 6~7 匁の温湯に浸し充分に水洗する。
- (2) 前法(3)のようにアリザリンとロート油の溶液を設け(1)の下漬綿糸を繰り入れ加温して染めること前法に同じ。
- (3) 染浴に冷水を満たし綿糸 100 匁につきアリザリン ブルー 3~3 匁 5 分及びクルライン 2 匁 5 分~3 匁を別に溶かし混和して加え(2)の染糸を繰り込み加温沸騰すれば絞る。
(注意) 若し染料の吸収が不足する時は染浴に醋酸少量を滴加して染める。
- (4) 浴に石鹼とソーダの溶液を設け染糸を浸し色相鮮明にするなど前法(5)と同じ手順で行う。

天然染料の部

夫れ天然染料は種類の数多にして或いは堅牢なるあり或いは然らざるり或いは染め易きあり或いは然らざるありと雖もいま本編にはその堅牢なる色素のみ選択し以て染色し且つ実施上の便宜を計り天然染料に人為染料中最も堅牢なるアリザリンを配合し成るべく剰余の手数を避け最も容易なる方法のみを記し以て未熟染舎の参考に供す。

黄色の染法

- (1) 醋酸盤土ボーメ 5~6 度の液に綿糸を浸し一夜を経て絞り別浴に微温湯を設けソーダ灰 6~7 匁を溶かしその中に綿糸を入れ濯ぎ 20~30 分浸して絞り清水で数回洗う。
- (2) 染浴に温湯を満たして綿糸 100 匁につきフラビン 5~6 匁を加え攪拌その中に(1)の下漬糸を繰り入れ徐々に加温し沸騰すれば絞り残液に冷水を加え温度を下げて塩化錫液少量を滴加し再度染糸を入れて暫時煮沸し絞り冷却して数回水洗する。
(注意) 黄木、渋木その他種々の植物黄色染料の染法は概して前法と同じくその染料を用いるとき染浴は錫製を良しとする。 若し銅製ならば内部を錫で鍍金したものをを用い鉄製は避ける

クロム黄色の染法

- (1) 浴に冷水を満たし綿糸 100 匁につき醋酸鉛 12~15 匁を別に溶かして加えその中に漂白綿糸を入れ暫時して絞り再度浸し置き 30 分以上して絞り之を水洗せず次に進む。
- (2) 浴に微温湯を設け重クロム酸カリ 4~5 匁の溶液を加え攪拌しその中に(1)の下漬糸を浸し暫時して絞り清水で数回洗う。

橙黄色の染法

- (1) 漂白綿糸を醋酸盤土液に浸し数時間して絞りソーダ灰の温湯で濯ぎ水洗後前法の如くフラビンの煎液に入れて染め鮮明なる黄色を染める。
- (2) 染浴に微温湯を設け茜混 (アカネ) の煎液または人為染料たるアリザリンとロート油少量を滴加しその中に(1)の綿糸を繰り入れ加温し沸騰すれば絞り稀薄ソーダの温湯に入れよく濯ぎ水洗後稀薄醋酸水に浸し清水で数回洗う。

クロム橙黄色の染法

前法クロム黄色染の如く(1)の醋酸鉛の液中に水化石灰少量を加え攪拌し石灰の沈殿するを俟って上澄液を採り漂白綿糸を入れ 1 時間後絞り之を前法{2}の如く別浴に設けた重クロム酸カリの溶液中に浸し暫時して絞り之を石灰の熱湯中に入れ好みの色相を得たらば絞り稀薄石鹼の温湯で濯ぎ色相を鮮明にして清水で洗う。

緑色の染法

前法の如くフラビン、渋木その他黄色染料で漂白綿糸を黄色に染め水洗後之を赤藍（ロートインジゴ）なき青藍（ブラウ インジゴ）の還元液中に入れ適宜の緑色に至れば之を稀薄硫酸水で濯ぎ清水で数回洗う。

(注意) 若し赤藍を含む藍瓶中に黄色綿糸を入れ緑色に染めると色相が極めて暗緑色になるのでより鮮明な色を求めるならば青藍を用いる。

クロム緑色の染法

漂白綿糸を藍瓶中に入れ青色に染め稀薄硫酸水でよく濯ぎ水洗後之をクロム黄色染法の如く醋酸鉛の溶液に浸し次に重クロム酸カリの液中に浸し次いで数回水洗する。

(注意) 鮮明な緑色を求めんとすれば前法注意の項に記したように成るべく赤藍の少ない藍液を用い既に濃色を染めたる藍残液を用いる。

紫色の染法

(1) 漂白綿糸を稀薄マルセル石鹼の液に浸し暫時して絞り乾燥後之を醋酸盤土液に浸漬すること5時間以上して絞りソーダ灰の温湯で濯ぎ水洗する。

(2) (1)の下漬綿糸をアリザリン赤色染法の如くアリザリン帯青、ロート油及び醋酸石灰を用いて普通の赤色に染色後、之を藍瓶中に投じ青色に上染め鮮明な紫色を得れば稀薄醋酸水で濯ぎ次に清水にて数回洗う。

(注意) アリザリンで綿糸を赤色に染色後石鹼分を完全に除去すべし。若し残留すれば光沢を失うことがある。

白茶色の染法

(1) 醋酸盤土ボーメ1～2度の液に綿糸を浸漬2時間以上して絞り別浴に微温湯を設け綿糸100匁につきソーダ灰3～4匁を溶かしこの中に下漬糸を入れよく濯ぎ数回水洗する。

(2) 染浴に温湯を満たしカテキュ3～4匁を溶かしソーダ灰2匁と混和し加え(1)の下漬糸を繰り入れ加温し殆ど淡黄茶色となれば絞り残液に極めて少量のアリザリンを添加し再度糸を入れ繰返し染め暫時して絞り更に残液に醋酸少量を滴加しこの中に染糸を浸し加温し色相を得れば絞り水洗後極めて稀薄の醋酸水に浸し清水で数回洗う。

(注意) 色相が鮮明過ぎるときは重クロム酸カリまたは鉄液を下浸けに加えるべし。

別染法

(1) 前法の如く稀薄醋酸盤土または明礬液に極めて少量の醋酸鉄若しくは硫酸鉄液を混和しその中に綿糸を浸しソーダの温湯にて水洗する。

(2) 染浴に温湯を満たし綿糸100匁につき渋木エキス若しくは黄木エキス1匁5分～2匁を溶かしてそれにソーダ灰溶液を少量混和し(1)の下漬綿糸を繰り入れ前法と同じく適量のアリザリン及び醋酸を用い染色後稀薄ソーダ温湯で濯ぎ水洗後稀薄醋酸水で数回洗う。

淡茶色の染法

(1) 稀薄の醋酸盤土若しくは明礬の液中に塩化錫5分の溶液を加えその中に綿糸を浸漬し一夜を経て絞る。

(2) 染浴に温湯を設けて綿糸100匁につきカテキュ15～20匁を入れ加温して溶解し冷水を加え華氏120～130度の温湯としその中に(1)の下漬糸を繰り入れ数時間後して絞り別浴に重クロム酸カリ2匁5分～3匁の温湯を設けその中に染糸を入れ暫時

して絞り之を稀薄ソーダの微温湯に浸しよく濯ぎ色を鮮明にし清水で数回洗う。

{注意} 前法のように下漬をせずカテキュの液に綿糸を直接に入れ染色することも可能であるが下漬して得た色相がより鮮明である。

焦茶色の染法

- (1) 綿糸を稀薄醋酸盤土または明礬の液に入れソーダ液で濯ぎ渋黄エキスの温液に繰り入れ淡黄色に染め次にこれを稀薄の硫酸鉄液に入れ暫時して絞り稀薄のソーダの温液で濯ぎ水洗する。
- (2) 染浴に綿糸100匁につきカテキュ30～35匁の液を設けその中に(1)の下漬糸を入れ加温し華氏120～130度に至りその俣浸漬し数時間して絞り別浴に重クロム酸カリ4～4匁5分の温溶液を設けこの中に染糸を入れ暫時して絞る。このとき濃度淡ければ再度カテキュ液に入れて染め稀薄ソーダ液で濯ぎ色を鮮明にして水洗後稀薄醋酸水に浸し清水で数回洗う。

黄茶色の染法

- (1) 染浴に温湯を設け綿糸100匁につきカテキュ20匁及び黄木又は渋木エキス3～4匁を別器で溶かし混和してその中に綿糸を繰込み華氏120～130度で30分後に絞り残液に明礬少量を加え再度浸漬し数時間後絞る。
- (2) 浴に温湯を満たし重クロム酸カリ3～3匁5分の溶液を注ぎ、その中に{1}の染糸を浸し暫時して絞り之を稀薄のソーダの微温湯にて濯ぎ色を鮮明にし水洗後稀薄醋酸水に浸して清水で洗う。

{注意} 色相鮮明に過ぎるときは重クロム酸カリ溶液中に硫酸銅液を加え染めると暗色となる。同液の分量は染色濃度により加減する。

海老茶色の染法

- (1) 浴に温湯5升を設けマルセル石鹼2～3匁5分を溶かしその中に綿糸を浸漬し30分後に固く絞り竿に掛け並列して乾燥し之を醋酸盤土または明礬液ボーメ3～4度のものに浸漬すること一夜経て絞り(綿糸アリザリン染法の下漬法とほぼ同じ)別浴にソーダ灰5匁の溶液を設けこの中に糸を投入し浴濯ぎ数回水洗する。
- (2) 染浴に冷水を満たし綿糸100匁につき100分中20のアリザリン10匁を加えその中に(1)の下漬糸を繰入れ加温沸騰すれば絞り残液にカテキュ8～10匁及びソーダ灰2匁の温湯を溶解し華氏120～130度の温湯に混和し染糸を浸漬し1時間して絞り次にこれを別浴に設けた重クロム酸カリ2～3匁の温浴中に入れ暫時して絞り之をマルセル石鹼2匁の温湯に入れよく濯ぎ色相を鮮明にして清水で数回洗う。

赤焦茶色の染法

- (1) 醋酸盤土ボーメ4～5度の液に綿糸を浸し3時間以上一夜を経て絞り之をソーダ灰4匁の温湯に浸しよく濯ぎ数回水洗する。
- (2) 染浴に冷水を満たし綿糸100匁につき100分中20のアリザリン10匁とロート油8匁を加え(1)の下漬糸を投入し加温し赤色に染めて絞り残液にカテキュ30～35匁の溶液を混和して再度染糸を浸漬し数時間して絞り之を重クロム酸カリ4～5匁の温液に入れ色相を鮮明にするなどの手順は前法と同じ。

(注意) 赤焦茶色を染めるにはアリザリン綿糸下漬法により下漬を施した後前法の手順を以て行う。

媚茶色の染法

- (1) 綿糸を醋酸盤土若しくは明礬液ボーメ3～4度のものに浸漬すること6時間以上にして絞り之を綿糸100匁につき5匁の割合で溶かしたソーダ灰の温湯に投入し水洗する。
- (2) 染浴に綿糸100匁につき渋木エキス10～12匁、スニマック2匁とカテキュ10匁を混和して加えその中に(1)の下漬糸を投入して加温し華氏120～130度で浸漬し数時間後絞り、之を硫酸鉄6～7匁の液若しくは硝酸鉄ボーメ半度の液に投入し5分後絞り水洗後之を稀薄ソーダ液でよく濯ぎ清水で数回洗滌する。

利久茶色の染法

- (1) 前法の如く綿糸を下漬しソーダの温湯にて濯ぎ水洗後之を渋木エキス及び黄木エキスの混和液を加え之を稀薄の鉄液に浸し淡黄媚茶色に染め水洗する。
- (2) 染浴に綿糸100匁につきカテキュ7～8匁の温液を設けこの中に(1)の染糸を繰り込み数時間後絞り出して之を重クロム酸カリ4匁の温溶液に投入し30分して絞り之を稀薄ソーダ温湯で濯ぎ色相を鮮明にして次に清水で数回水洗する。

銀鼠色の染法

染浴に綿糸100匁につき5倍子2匁の煎液を設け青木エキス（ログウッドエキス）5分の溶液を混和し綿糸を浸し30分して絞り之を硫酸鉄4匁の冷液に入れ清水で数回洗う。

鼠色の染法

- (1) 染浴に温湯を設け綿糸100匁につきスニマック8匁の煎液と青木エキス（ログウッドエキス）2匁5分の溶液を混和しこの液に綿糸を浸漬30分以上1時間して絞る。
- (2) 浴に冷水を満たし硫酸鉄5匁の溶液を加えこの中に(1)の染糸を投じ鼠色を得れば水洗し之を稀薄ソーダ水で濯ぎ数回水洗する。

黄鼠色の染法

- (1) 綿糸を稀薄の醋酸盤土液若しくは明礬液に投入しソーダ温湯で濯ぎ水洗する。
- (2) 染浴に綿糸100匁につきスニマック8匁及びフラビン1匁の煎液を設け青木エキス{ログウッドエキス}1匁の溶液を加え加温し華氏120～130度でその中に{1}の下漬糸を繰り入れ浸漬して数時間後絞り之を稀薄木醋酸鉄の液に浸し次に稀薄ソーダ水にて濯ぎ清水で洗滌する。

葡萄鼠色の染法

- (1) 前法の如く綿糸を下漬しソーダ灰温湯にて濯ぎ水洗後染浴に冷水を満たしアリザリンとロート油少量を加え下漬糸を繰り入れ加温し淡赤色に染めソーダ灰温湯で濯ぎ水洗する。
- (2) 染浴に綿糸100匁につき5倍子5～6匁の液を設け青木エキス（ログウッドエキス）2匁の液を混和し加えこの中に(1)の染糸を浸し1時間して之を稀薄硝酸鉄液に投入し暫時して絞り水洗後稀薄ソーダ灰温湯で濯ぎ色相を鮮明にして清水で数回水洗する。

藍鼠色の染法

- (1) 藍瓶中に綿糸を入れた尚色に染め之を稀薄硫酸水に浸し水洗する。
- (2) 染浴に綿糸100匁につき5倍子5匁及びスニマック2匁の煎液を設けて加温し華氏120～130度に保ちその中に{1}の染糸を浸し1時間して絞り稀薄硫酸鉄液に浸し暫時して絞り清水で洗滌する。

利久鼠色の染法

- (1) 前法の如く綿糸を藍瓶中に浸し淡青色に染め稀薄硫酸液に通して水洗する。
- (2) 染浴に綿糸100匁につきスユマック5～6匁及び黄木エキス1匁の煎液を設けこの中に{1}の染糸を浸し次に稀薄鉄液に入れ清水にて洗う。

黒色の染法

- (1) 綿糸を藍瓶中に浸し青色に染め前法の如く之を稀薄硫酸水にて数回水洗する。
- (2) 染浴に綿糸100匁につきスユマック4匁及び青木エキス(ログウッドエキス)20匁の混和液を設けその中に{1}の青色染糸を浸し加温し煮沸すること30分以上して温度を下げその俣浸漬すること6時間以上一夜経て絞り別浴に硫酸銅5匁及び重クロム酸カリ2匁の混和液を設け染糸を投入し30分して絞り暫時大気に曝し然る後に再度前の残液の青木エキスとスユマックの混和液に入れ加温しその俣浸し置き3時間以上して絞る。
- (3) 浴に硫酸鉄10匁の溶液を設けてその中に{2}の染糸を繰り込み1時間以上に及んで絞り竿に掛け並列して大気に曝し、次に稀薄ソーダ水で濯ぎ色相を鮮明にして更に稀薄ソーダの微温湯を設けオリーブ油を混和し染糸を浸し濯ぎ乾燥して之を水洗する。

別染法

- (1) 染浴に5倍子10匁の煎液を設けその中に青木エキス{ログウッドエキス}13匁及び渋木エキス1匁を溶解しその中に綿糸を浸し加温し煮沸1時間にしてその俣浸し置き2時間以上経て絞る。
- (2) 浴に冷水を適量設け水化石灰6～7匁を加え攪拌し白濁した石灰水中に{1}の染糸を浸しよく濯ぎ暫時して引揚げ水洗し絞る。
- (3) 浴に硫酸鉄8匁の液を設けその中に{2}の染糸を投じ30分～1時間して絞り稀薄ソーダの微温湯で濯ぎ絞り、然る後に{1}の残液の青木エキスの温液にソーダ灰2～2匁5分を加え再度染糸を浸漬し1時間して絞り更に前の硫酸鉄の残液に硫酸鉄液5匁を追加し染糸を浸し30分後引揚げ絞り稀薄ソーダの微温湯にて濯ぎ清水にて数回洗滌する。